

現千葉県議会議員



岡村やすあき



産業 1 高齢者雇用

活力あるまちをめざし、地域経済の
活性化と産業の振興に努めます。

「高齢者雇用」の推進

二〇〇六年内に、六十五歳以上の高齢者の人口の割合が二〇%を突破する超高齢社会になり、そのまま増加を続け、二〇三三年には三〇%台に達することが予想されています。(国立人口問題研究所の推計)

今年、二〇〇七年は、いわゆる団塊の世代の大量退職が始まり、少子高齢化社会のなかで、労働力不足も深刻になってきます。

また、定年退職する多くの熟練技術者の専門技術・技能をいかに継承していくかが論議されています。

千葉県内には、現在、いわゆる団塊の世代の方が約三四万人おり、そのうち、約二四万人の方が就業しています。今年から、順次、定年退職していくことによる労働力の不足や経済社会の活力低下が懸念されています。さらに、このことは、年金・医療の財政破綻をもたらします。

東京都老人総合研究所の調査によると、「日本の現代の高齢者」は、言語性も動作性も共にIQがきわめて高く、知能も身体能力も非常に若いことが立証されています。

また、労働意欲も、フランス・ドイツ・アメリカ等の諸外国とくらべても、群を抜いて高いことが明らかにされています。



それだからこそ、高齢者が高齢になっても働き続けることのできる社会環境を作り出せば、年金の支給開始も遅らせることが出来ますし、労働力不足も解消できることとなります。今後の超高齢社会においては、能力の高い高齢者にもっと仕事に就いてもらわなければなりません。

また、各種統計からみると、高齢者の就業率と老人医療費は逆相関関係にあります。つまり、高齢者の就労を促進すると、高齢者の健康は、増進するということです。

そこでまず考えられるのが、「定年延長」です。定年間は高い賃金が保障されているのに、いざ定年になると、安い賃金のお手伝い程度になってしまうのが現実です。

そのため、定年雇用の年齢引き上げの施策を図っていく必要があるのです。

私は、「高齢者雇用の促進」の施策として、次の三点の実現を図っていきます。

一、現在、県内各企業においては、継続雇用制度の導入や、高齢者の六十五歳までの段階的雇用確保措置の導入が進められています。七十歳以上の定年延長企業への助成の施策の実現を図ります。

二、定年退職者や退職直前世代等に対し、総合的な支援体制の整備を行うと共に、各企業に対して、高齢者の具体的な人材活用についての情報提供等を行います。

三、現在の高齢者は、高い就業意欲を有し、知力・体力とも遜色がなく、「経済社会の活力維持のための貴重な人材である」という社会的意識の醸成に努めます。

産業・雇用に関する重点目標

- ・ 高齢者の雇用を促進します。特に、現段階では、65歳までの雇用を保证するように努めます。
- ・ 商業の活性化に向けた魅力ある商店街整備と、大型店との共存共栄をはかる施策等を推進します。
- ・ 「ちばエコ農業」の推進により、安全で安心、新鮮な農産物生産事業を推進します。
- ・ 地元四街道市の地場産業の育成に努め、農商工業を中心とした地場産業の発展を図ります。

